

ユーザーズ・マニュアル

_TAPE J-37

ARTURIA

_The sound explorers

スペシャル・サンクス

ディレクション

Frédéric Brun

プロジェクト・マネジメント

Marius Lasfargue

プロダクト・マネジメント

Callum Magill (lead)

Clément Bastiat

デジタル信号処理

Fanny Roche (lead)

Mauro De Bari

DSP ライブラリー

Samuel Limier (lead)

Hugo Caracalla

Alessandro De Cecco

Marius Lasfargue

Marc Antigny

Andrea Copolla

Loris De Marco

Fanny Roche

Kevin Arcas

Cyril Lepinette

Geoffrey Gormond

Pierre-Hugo Vial

Yann Bourdin

Mauro De Bari

Rasmus Kürstein

ソフトウェア

Yann Burrer (lead)

Raynald Dantigny (lead)

Florent Lagaye

ソフトウェア・ライブラリー

Pierre-Lin Laneyrie (lead)

Gonçalo Bernardo

Nathan Graule

Marie Pauli

Alexandre Adam

Valentin Bonhomme

Florent Lagaye

Patrick Perea

Stéphane Albanese

Violaïne Burlet

Samuel Lemaire

Pauline Alexandre

Raynald Dantigny

Fabien Meyrat

Baptiste Aubry

Davide Gioiosa

Mathieu Nocenti

デザイン

Maxence Berthiot (lead)

Clément Bastiat

Morgan Perrier

Ulf Ekelöf

Callum Magill

サウンド・デザイン

Lily Jordy (lead)

Martin Rabiller

品質保証

Arthur Peytard (lead)

Bastien Hervieux

Nicolas Naudin

Roger Schumann

Mathieu Bosshardt

Germain Marzin

Rémi Pelet

Nicolas Stermann

Anthony Le Cornec

Aurélien Mortha

Félix Roux

Enrique Vela

ユーザー・マニュアル

Stephen Fortner (author)	Félicie Khenkeo	Holger Steinbrink (ドイツ語)	Ana Artalejo (スペイン語)
Jimmy Michon	Charlotte Métais (フランス語)	Minoru Koike (日本語)	

アプリ内チュートリアル

Gustavo Bravetti

DES スタジオ

Poussin Kechit	Eric Cohen
----------------	------------

ベータ・テストिंग

Abstrakt Music Lab	Tony Flying Squirrel	Luca Lefèvre	Davide Puxeddu
Bastiaan Barth (Solidtrax)	Jean-Marc Gendreau	James Lovie	Mateo Relief vs. Mister X5
David Birdwell	Mark Gijnsman	Andrew Macaulay	Fernando M. Rodrigues
Raphael Cuevas	Kirke Godfrey	Olivier Malhomme	Yann SNK
Marco (Koshdukai) Correia	Mat Herbert	Terry Marsden	Wheeliemix
Dwight Davies	Matt Hooper	Gary Morgan	Sean Weitzmann
Adrian Dybowski	Jay Janssen	Apollo Negri	Chuck Zwicky

© ARTURIA SA – 2024 – All rights reserved.

26 avenue Jean Kuntzmann
38330 Montbonnot-Saint-Martin
FRANCE
www.arturia.com

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があります、それについて Arturia は何ら責任を負いません。許諾契約もしくは秘密保持契約に記載の諸条項により、本マニュアルで説明されているソフトウェアを供給します。ソフトウェア使用許諾契約には合法的使用の条件が規定されています。本製品を購入されたお客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部を Arturia S.A. の明確な書面による許可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者に帰属する商標または登録商標です。

Product version: 1.0.0

Revision date: 6 January 2025

使用上のご注意

本マニュアルでは、Arturia Tape J-37 の機能や使用方法、ダウンロードとアクティベートの方法をご紹介します。その前に、大切なお知らせを：

仕様変更について：

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものですが、改良等のために仕様を予告なく変更することがあります。

重要：

本ソフトウェアは、アンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本機を長時間使用しないでください。

難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

注意：

知識の不足による、誤った操作から発生する問題に対するサポートは、保証の対象外となり、料金が発生します。まずこのマニュアルを熟読し、販売店とご相談の上、サポートのお問い合わせをお勧めします。

てんかんに関するご注意 - Tape J-37 をご使用される前に必ずお読みください：

日常生活の中で、特定の点滅や光のパターンにさらされると、てんかん発作や意識消失を起こしやすい人がいます。これは、てんかんの病歴がない人や、てんかん発作を起こしたことがない人でも起こりえます。ご自身やご家族の方で、点滅する光を浴びたときにてんかんの症状(発作や意識消失)を起こしたことがある方は、本ソフトウェアを使用する前に医師に相談してください。

本ソフトウェアの使用中に、以下のような症状が現れた場合は、直ちに 使用を中止し、医師に相談してください：めまい、目のかすみ、目や筋肉のけいれん、意識の喪失、方向感覚の喪失、不随意運動やけいれん。

本ソフトウェアの使用でのてんかん等の予防方法 (これが完全とは限りません)

- 画面に近づき過ぎないようにしてください。
- 画面から適切な距離を保ってください。
- 疲れているときや、睡眠が不十分のときは本ソフトウェアの使用を控えてください。
- 十分に明るい空間で本ソフトウェアをご使用ください。
- 1時間使用しましたら10～15分間の休憩を入れてください。

Tape J-37 をお買い上げいただきありがとうございます！

すべての Arturia 製品の中核にあるもの、それは高品質であるということです。Tape J-37 も例外ではありません。私たちは、史上最も有名で垂涎の的であるテープレコーダーを忠実に再現し、その機能をさらに強化したエミュレーションをお届けできることを非常に嬉しく思っています。

Arturia のハードウェアやソフトウェアインストゥルメント、エフェクト、MIDI コントローラー等各種製品のチェックに、[Arturia ウェブサイト](#)をご活用ください。アーティストにとって不可欠で刺激的なツールが豊富に揃っています。

より豊かな音楽ライフを

The Arturia team

目次

1. TAPE J-37 へようこそ！	4
1.1. Studer J37 レコーダー	4
1.2. なぜ Tape J-37 を？	4
1.3. Tape J-37 主な特長	4
2. アクティベーションと最初の設定	6
2.1. 互換性について	6
2.2. ダウンロードとインストール	6
2.2.1. Arturia Software Center (ASC)	6
2.3. プラグインとして動作	7
2.3.1. オーディオとMIDIの設定	7
3. MAIN PANEL	8
3.1. 共通動作	8
3.1.1. 設定値のポップアップ	8
3.1.2. Parameter descriptions - パラメーター名の表示	9
3.1.3. 設定値の微調整	9
3.1.4. ダブルクリックでデフォルト値に	9
3.2. Color	10
3.2.1. Modern モード	10
3.2.2. 初心者向けのテープ用語	10
3.3. Drive	11
3.4. Transport and speed - トランスポートとスピード	11
3.4.1. Tape Speed	11
3.4.2. Start and Stop - スタートとストップ	12
3.5. VU Meters - VU メーター	13
3.5.1. VU Calibration - VU メーターのキャリブレーション	13
4. ADVANCED FUNCTIONS	14
4.1. EQ	14
4.1.1. EQ Mode	15
4.2. Calibration	16
4.2.1. Instability	16
4.2.2. Noise	16
4.3. Delay	17
4.3.1. デレイタイムとテンポ同期	17
4.3.2. Feedback と Offset	18
4.3.3. HPF と LPF	18
4.3.4. デレイのビジュアライザー	18
5. The Toolbars	20
5.1. Upper Toolbar - アッパーツールバー	21
5.1.1. Main Menu	21
5.1.2. プリセットブラウザへのアクセスとネームペーン	24
5.1.3. Dual settings and copy - A/B セッティングとコピー	25
5.1.4. Advanced Button	25
5.1.5. Output Volume	25
5.2. Lower Toolbar - ロワーツールバー	26
5.2.1. Parameter Descriptions - パラメーター情報エリア	26
5.2.2. Oversampling Quality	26
5.2.3. Stereo Offset	27
5.2.4. Animation	27
5.2.5. Bypass	27
5.2.6. Undo, Redo, and History - アンドウ、リドゥ、エディット履歴	28
5.2.7. CPU Meter - CPU メーター	29
5.2.8. Resize handle - リサイズハンドル	29
6. Selecting Presets	30
6.1. Preset Name Pane - プリセットネームペーン	30
6.1.1. 上下の三角矢印	30
6.1.2. Quick Browser - クイックブラウザ	31
6.2. The Preset Browser - プリセットブラウザ	32
6.3. Searching Presets - プリセットのサーチ	32
6.3.1. Using Tags as a Filter - タグによるフィルタリング	33
6.3.2. Banks	35

6.4. The Results Pane - リザルトペーン	35
6.4.1. プリセットの並べ替え	35
6.4.2. プリセットに "いいね" をつける	36
6.4.3. シャッフルボタン	36
6.4.4. おすすめファクトリープリセット	36
6.5. Preset Info Section - プリセット情報	37
6.5.1. クイックメニュー	38
6.5.2. スタイルの編集	39
6.5.3. 複数のプリセットの情報を編集する	39
7. ソフトウェア・ライセンス契約	41

1. TAPE J-37 へようこそ！



この度は Arturia Tape J-37 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。このオーディオプラグインは、伝説的機種である Studer J37 4トラック・テープレコーダーのサウンドを忠実に再現したもので、AAX、AudioUnits、VST2、VST3 の各プラグイン形式で動作します。J37 は、初の真のマルチトラックレコーダー（ステレオよりもトラック数が多いレコーダー）として広く認知されています。さまざまな楽器やボーカルを別々のトラックに録音し、あとでミキシングやエフェクト処理などを行うという音楽制作の近代的な時代を築き上げ、以来、世界で最も称賛され、コレクターも多いテープレコーダーとなりました。

Studer J37 のサウンドは、全段真空管を採用し、マシン本体とアナログテープの両方による固有のEQカーブ、コンプレッション、緩やかなサチュレーションにより、非常に特徴的でした。この何物にも代えがたい質感をトラックやセンド、マスターバスに取り入れることができるのが、この Tape J-37 です。MTR の元祖とも言える Studer J37 をモデリングした Tape J-37、そのサウンドをお楽しみいただければと思います。

1.1. Studer J37 レコーダー



写真：Mark Waugh (Alamyからのライセンスにより掲載)

Studer社は1948年にスイスで設立されました。最初の製品はオシロスコープでしたが、1950年代までには高性能なプロ用テープレコーダーで有名となりました。

J37は1964年に発売され、4トラックの録音が可能で、1インチ幅のテープを使用していました。1トラック当たりのテープ幅は1/4インチとなり、これは当時のモノラル・テープレコーダーのテープ幅に相当していました。これにより、現代の水準から見ても高音質と言える品質を実現していました。

J37の最初の納入先のひとつがアビーロード・スタジオで、そこでは2台のJ37が導入されました。この2台はビートルズのアルバム『サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド』のレコーディングで使われたことで有名で、このレコードは「初の4トラック・レコーディング」だとよく言われますが、それは半分正解、半分間違いです。プロデューサーのジョージ・マーティンはこの2台のマシンを駆使し、複数のパートを重ねるために2台の間でトラックを行き来（ピンポン）させて制作しました。この手法は大成功を収め、アビーロード・スタジオは最終的に合計8台のJ37を増設しました。

J37は、ビートルズのエンジニア、ケン・タウンゼントによるアーティフィシャル・ダブル・トラックリング（ADT）の開発にも貢献しました。この音響処理は、1台の再生ヘッドからもう1台の録音ヘッドに信号を直接送ることで、ボーカルなどのフレーズを2台のテープレコーダーに同時に録音するというものです。その結果、わずかなディレイと、2台のレコーダー間のわずかな速度差によって、エコーやその他の不要な処理を加えることなく、音を太くすることができました。

1.2. なぜ Tape J-37 を？



Arturia は、クラシックな楽器やエフェクトを丹念に再現することで知られてきました。私たちは、アイコン的な J37 のサウンドをあなたの音楽的探求にお届けしたいと考えていました。言うまでもなく、クラシックなマルチトラック・テープレコーダーを探し、購入し、維持するためのコストや手間は、そのサウンドの「Xファクター」と言える特別なものをトラックに落とし込むことが主な目的ですが、現実世界ではほとんどのミュージシャンにとって、この種のプロジェクトには手が届きません。

Tape J-37 は、あなたの DAW に「Xファクター」をもたらします。個々のトラックにレトロな質感を加えたり、ボーカルやドラムなどのトラックグループを共通したキャラクターにしたり、あるいはミックス全体をよりウォームでまとまりのあるものにする接着剤的な効果もあります。

混乱を避けるために申し上げておきますが、Tape J-37 はレコーダーではありませんし、ルーパーのようにオーディオ信号をサンプリングして再生するわけでもありません。その代わりに、トラックの一部または全部を、Studer J37 で録音したような「サウンド」にします。これで、あなたもレコーディングのセレブになれます。

1.3. Tape J-37 主な特長

Tape J-37 の主な機能や特長には、次のようなものがあります：

- **Color** : EQ カーブ、テープの種類、テープの経年変化に応じた4種類の音のプロファイルを選択できます。
- **Modern モード** : テープによる音の質感を維持しつつ、Studer J37 固有の EQ カーブをバイパスします。
- **Drive** : 入力ゲインを設定でき、それに伴うテープ飽和を調整できます。
- **Speed Control** : 2種類のテープ速度 (7.5 または 15 ips (19cm/s または 38cm/s)) による音のキャラクターをシミュレートします。
VU メーター : 音量レベル、全高調波歪 (THD)、3種類のキャリブレーションレベルを表示します。
- **EQ** : ローシェルフ、ベルカーブ、ハイシェルフの3バンド EQ です。
- **Instability** : ピッチの揺らぎ調整と微妙なモジュレーションでアナログテープをシミュレートします。
- **Noise** : テープヒス (ノイズ) のレベルを調整します。
- **Delay** : フィードバック、テンポ同期、ステレオオフセットを調整できるループディレイです。
- **Oversampling** : 制作作業中は Studio にセットし、最終ミックスダウンでは Render というように、オーバーサンプリングのモードを切り替えることができます。
- **Stereo Offset** : オーディオ信号の左右チャンネルに、モデリングされた J37 の別々のトラックを使用することができ、それによる左右チャンネル間の質感にわずかな違いを持たせることができます。
- **プリセット** : 微妙な変化から大胆な変化まで、25種類のテープ効果プリセットを内蔵しています。
- **A/B settings** : 1つのプリセットにつき2つのパラメーターセットのセッティングを選択でき、セッティング間のコピーも可能です。

2. アクティベーションと最初の設定

2.1. 互換性について

Tape J-37 は Windows 10 またはそれ以降、macOS 11 またはそれ以降のコンピュータで動作します。また、Apple M1、M2、M1 および M2 Pro/Max/Ultra、並びにその他の Apple シリコンプロセッサにも対応しています。お使いのレコーディングソフトウェア (DAW) の Audio Units、AAX、VST2、VST3 のプラグインとして使用できます。



2.2. ダウンロードとインストール

Tape J-37 は、[Arturia 製品ページ](#)で *Buy Now* または *Get Free Demo* をクリックすることでダイレクトにダウンロードできます。フリーデモは使用時間が20分に制限されています。

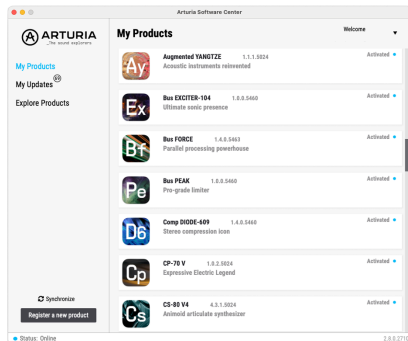
Arturia アカウントをお持ちでない場合は、[My Arturia ウェブページ](#)に表示される指示に従ってアカウントを作成されることをお勧めします。

Tape J-37 をインストールしましたら、次のステップは製品登録です。この手続は **Arturia Software Center** という別のソフトウェアで簡単に行えます。ログイン後、Tape J-37 内でアクティベーションを行うこともできます。Tape J-37 を始めてトラックに使用するときアクティベーションを行うかどうかを選択することができます。

2.2.1. Arturia Software Center (ASC)

ASC のインストールがまだでしたら、こちらのウェブページからダウンロードしてください：[Arturia ダウンロード&マニュアル](#)

Arturia Software Center はページのトップ付近にあります。お使いのシステムに合ったインストーラー (Windows または macOS 用) をダウンロードしてください。ASC はお持ちの Arturia アカウントのリモートクライアントで、お持ちの Arturia ソフトウェアの全ライセンスの管理やソフトウェアのダウンロード、アップデートなどをワンストップで行える便利なアプリケーションです。



ASC のインストールが済みましたら、次の操作をします：

- Arturia Software Center (ASC) を起動します。
- お持ちの Arturia アカウントでログインします。
- ASC の画面を下にスクロールして **My Products** セクションを表示させます。
- 使用したいソフトウェア名 (この場合は Tape J-37) の隣にある **Activate** ボタンをクリックします。

これで準備完了です！

2.3. プラグインとして動作



Tape J-37 は Cubase、Digital Performer、Live、Logic、Pro Tools、Reaper、Studio One など主要なデジタルオーディオワークステーション (DAW) のプラグインとして動作します。

プラグインにはハードウェアにはない、次のようなメリットがあります：

- お使いのコンピュータの CPU が耐えられる範囲で複数の Tape J-37 を同時に使用することができます。
- DAW のオートメーション機能を使用してプラグインのパラメーターを自動制御することができます。
- プラグインの各種セッティングは DAW のプロジェクトの一部としてセーブされ、次回そのプロジェクトを開いたときに以前と同じセッティングを再現できます。

2.3.1. オーディオと MIDI の設定

Tape J-37 はプラグイン動作のみですので、オーディオや MIDI に関する各種設定はレコーディングソフト (DAW) で行います。これらの設定はプリファレンスにあることが一般的ですが、具体的な設定方法はレコーディングソフトによって違いがありますので、オーディオインターフェイスの選択方法やオーディオ出力、サンプルレート、MIDI ポート、プロジェクトのテンポ、バッファサイズ等々の設定方法の詳細につきましては、お使いのレコーディングソフトのマニュアル等をご参照ください。

これでソフトウェアのセッティングは完了しました。さあ、あなたのサウンドにアナログテープの良さを加えましょう！

3. MAIN PANEL



メインパネルは、3つのグループに分かれたボタンとノブがレコーダーの前面にあるほか、画面上部中央にメーターがあるという、非常にシンプルなものです：

場所	コントロール	内容
1.	Color [p.9]	4種類のテープ/EQカーブとモダンモードの選択。
2.	Drive [p.11]	テープのドライブとサチュレーション調整。
3.	Transport and speed [p.11]	テープのスタート/ストップとテープ速度選択。
4.	VU Meters [p.13]	レベルメーターとキャリブレーション選択。

3.1. 共通動作

Arturia FX Collection のすべてのプラグインでは、音色エディットが簡単に行えるように、ノブやスイッチ類の動作を共通にしています (このことは、[アドバンスパネル \[p.14\]](#)の各パラメーターも同様です)。

3.1.1. 設定値のポップアップ



ノブやスイッチ類 (Tape J-37 の場合、Drive ノブやメインのボリュームノブも含まれます) を操作したり、そこへマウスオーバーすると、ポップアップパナール ("ツールチップ") でそのときの設定値を表示します。

3.1.2. Parameter descriptions - パラメーター名の表示



ノブやスイッチ類を操作したり、そこへマウスオーバーすると、そのパラメーターと簡単な説明が [ローツールバー \[p.26\]](#) の左側に表示されます。

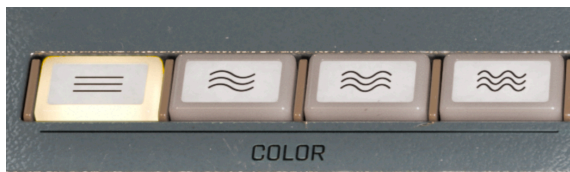
3.1.3. 設定値の微調整

マウスの右ボタンまたは Ctrl キーを押しながらノブをドラッグすると、設定値の変化が遅くなります。これにより、設定値をより正確に合わせやすくなります。

3.1.4. ダブルクリックでデフォルト値に

ノブなどの連続可変のパラメーター設定値をダブルクリックすると、設定値がデフォルト値に戻ります。この操作は、Color のようなオン/オフを切り替えるラジオボタン・タイプのパラメーターには適用されません。

3.2. Color



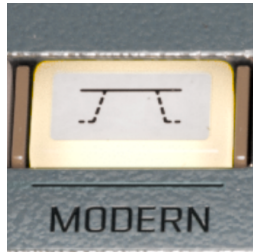
Tape J-37 の開発時に、テープのタイプとキャリブレーションの4種類の組み合わせによるサウンドをモデリングしました。このパラメーターによる変化を音楽的な表現で言えば、非線形度や音の暖かみ、ザラツとした質感が徐々に上がっていきます。この4種類は、パネル左側にあるボタンで切り替えることができます。1度に選択できるのは1つのみです。左から順に次のようなオプションがあります：

カラー	テープタイプ	テープの古さ	イコライゼーション
Pristine	SM911	新品	ヨーロッパ (CCIR)
Warm	SM911	新品	アメリカン (NAB)

カラー	テープタイプ	テープの古さ	イコライゼーション
Dirty	SM468	古品	アメリカン (NAB)
Dirtiest	SM468	古品	アメリカン (NAB)、オーバーバイアス

Pristine から別の設定に切り替えていくと、テープリールの左側 (テープ送り側) のリールの色がシルバーから黄色、オレンジ、赤へと変わっていきます。

3.2.1. Modern モード



Studer J37 のインプットアンプには、主に低域と高域で若干のロールオフがあるナチュラルな EQ カーブがかかっています。Tape J-37 ではそれを忠実に再現しています。Modern モードをオンにすると、その EQ カーブをキャンセルしますが、**Color** で選択した設定によるキャラクターの変化は残ります。

3.2.2. 初心者向けのテープ用語

2020年代までに、少なくとも2、3世代のミュージシャンがアナログテープに触れることなく素晴らしいレコーディングを行っています。そのため、上記の用語の中には耳慣れないものもあるかと思いますが、ご興味がある方のために、ここで簡単にご説明します。

SM911 と **SM468** は、アナログテープのタイプを指します。SM911 はノーマルバイアスのオープンリールテープで、今でも Recording the Masters (RTM) 社が製造しています。RTM は SM468 も製造していますが、こちらは BASF 社が製造していたビンテージのテープの現代版です。

アナログテープにおける **イコライゼーション** とは、チャンネル EQ のノブやフェーダーを操作することではありません。これは周波数調整であり、テープ特有の録音時の高域のロスを補正するものです。CCIR (Consultative Committee for International Radio: 国際無線通信諮問委員会) と NAB (National Association of Broadcasters: 全米放送事業者協会) は、必要な EQ の量をテープの配合に合わせるための基準を策定した2つの組織です。

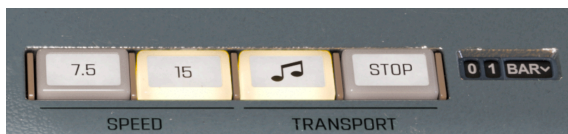
バイアス は、カセットテープ・ファンにはお馴染みの用語です。録音素材に40-150kHz (人間の可聴域より上) の信号を加えることを指します。どうしてかと言いますと、磁気テープの物理的特質上、テープ上の磁性体の粒子が磁化させ、記録された信号を可能な限り最高のダイナミックレンジと周波数特性で保持するための「ひと押し」が必要だからです。高振幅のバイアス信号は、ある点までは録音品質を向上させますが、そのポイントを超えると「オーバーバイアス」とみなされます。この状態になると、Tape J-37 の Color の4番目の設定のように、音に非線形性や歪みのような効果を加えることができます。

3.3. Drive



Tape J-37 の **Drive** ノブを上げていくと、バーチャルテープにより高いレベルの信号が入力されます。これにより、アナログテープのサチュレーション (テープ飽和) やコンプレッションを完璧にエミュレートでき、さらに高い設定では若干の歪みも加えることができます。Drive は「ゲイン補正」されますので、ノブを操作してもプラグインの全体的な出力レベルを劇的に変化させることはありません。多少の変化はありますが、トラックをオーバーロードさせることはありません。

3.4. Transport and speed - トランスポートとスピード



このセクションでは、テープ速度の選択とテープのスタート/ストップを操作します。また、Tape J-37 のテープスタート/ストップ時の動作を設定する [メニュー \[p.12\]](#) もあります。

3.4.1. Tape Speed

テープ速度は、プロのレコーディングでの標準規格だった7.5インチ/秒 (19センチ/秒) または15インチ/秒 (38センチ/秒) のどちらかに切り替えることができます。ロワーツールバーの [Animation \[p.27\]](#) がオンの場合、テープ速度の選択に合わせてリールの回転速度が変わります。

3.4.1.1. どのテープ速度を使うべきか？


オーディオ愛好家の間では、7.5インチ/秒と15インチ/秒のどちらが「良い」か、つまり Tape J-37 のようなテープエミュレーション・プラグインでどちらのテープ速度を選択するかについて、長い間熱い議論が続いています。一般的には、15ipsのほうがより豊かでフラットな周波数特性が得られ、一定時間の信号を録音するためにより多くのテープが使われることから、より高音質だと考えられています。オーディオ編集がカミソリの刃でテープを切ってつなぎ合わせることを意味していた時代には、15インチ/秒で録音されたテープのほうが正確な編集を行いやすかったのです。

一方7.5インチ/秒では、一定の長さのテープがより長い時間、より多くの信号にさらされるため、磁性体の粒子がより飽和します。その結果、低音域のレスポンスが向上し、その代償として高音域がわずかに減衰します。また、7.5インチ/秒なら同じ長さのテープの録音時間を2倍にできます。アナログテープは高価でした (そして今も高価です) ので、これは小さな問題ではありません。

3.4.2. Start and Stop - スタートとストップ



Stop ボタンは、テープレコーダーが停止しつつも信号が完全に止まっていない間に、音が遅くなりピッチが下がる様子をエミュレートします。スタートボタン（音符のボタン）をクリックすると再生を再開します。Stop ボタンをクリックすると、Tape J-37 を使用しているトラックの音 だけがその影響を受け、後述のメニューで設定した時間で完全に停止します。

 また、Tape J-37 の「メカニカル」部分にあるテープヤリール、ローラー、あるいはテープそのものをクリックしたままにすることで、瞬間的な停止やテープ走行をスローダウンさせることもできます。

3.4.2.1. Start/Stop menu - スタート/ストップメニュー

Stop Time	Start Mode
1/4 BAR	Instant
1/2 BAR	Fast Forward
1 BAR	
2 BAR	
4 BAR	
8 BAR	

Stop ボタンの右にある "BAR" とカウンターアイコンをクリックすると、Start/Stop メニューが開きます。

Stop Time：テープリールが完全に停止するまでの時間を調整し、DAW のテンポに同期させることができます。

Start Mode：スタートボタンをクリックしたときに、再生をどのように再開させるかを次のオプションから選択できます：

- *Instant*：トラックのピッチとテンポで再生を瞬時に再開します。
- *Fast Forward*：Stop Time と同じ時間をかけて元のピッチやテンポに戻りながら再生を再開します。

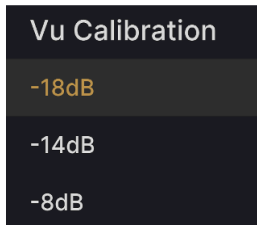
3.5. VU Meters - VU メーター



Tape J-37 にはステレオ VU メーターがあり、レベルをデシベル (dB) で表示するとともに、全高調波歪 (THD) も表示します。これは重要なポイントですが、Tape J-37 はプラグインからの出力レベルをある程度一定に保つようにゲイン補正していますので、このメーターは Tape J-37 の Color と Drive の設定に従って、実際の J37 テープレコーダーがオーディオ信号をテープに刻み込んだであろうレベルを表示します。そのため、Tape J-37 のメーターがレッドゾーンに深々と入っていても、Tape J-37 を使用しているトラックのレベルは、クリップに近づいていないということになることもあります。

Drive を高く設定したり、Color を「よりダーティ」なセッティングにしたりすると、よりコンプレッションがかかり、場合によっては歪みも発生しますが、これはプラグインが意図したエフェクトの一部として生成したものです。DAW レベルでは、トラックに悪いことは何も起こっていません。

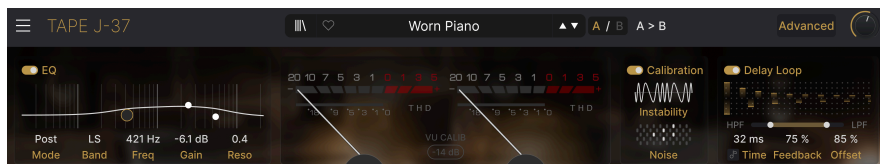
3.5.1. VU Calibration - VU メーターのキャリブレーション



上図の各数値は Tape J-37 のメーターが 0dB として解釈するレベルです

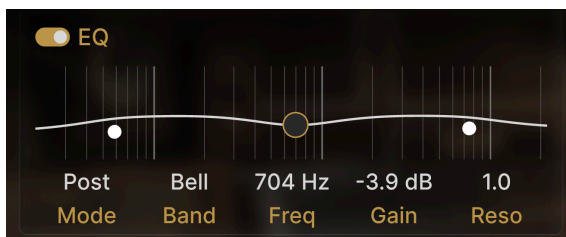
上述のゲイン補正のため、Tape J-37 では VU メーターによるビジュアルフィードバックを最適化するために、3つのキャリブレーション設定が用意されています。メーターの間にある **VU CALIB** をクリックすると、キャリブレーションメニューが開きます。3つの設定値は、Tape J-37 の VU メーターが 0dB として表示する DAW からの入力信号のレベルに対応しています。つまり、-18dB の設定は信号のピークに最も敏感で、-8dB は最も緩慢にメーターが振れる設定です。

4. ADVANCED FUNCTIONS

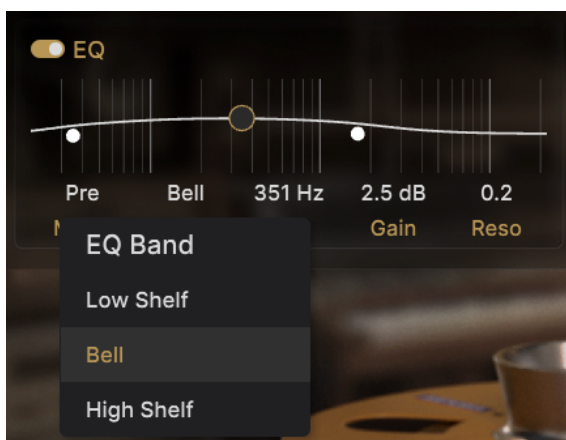


アッパーツールバーの右側にある **Advanced** ボタンをクリックすると、Tape J-37 の画面上段の VU メーターの両脇にアドバンス機能が開きます。アドバンス機能には、3バンド EQ [p.14]、不安定性やノイズの設定を行うキャリブレーション [p.16]、ディレイ [p.17]といった、サウンドをさらに洗練させるためのさまざまな設定やエフェクトが用意されています。

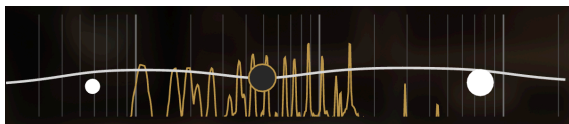
4.1. EQ



EQ の画面左上にあるトグルスイッチをクリックすると、EQ のオン/オフ (バイパス) が切り替わります。バイパスにすると、EQ の設定を変更することなく、その効果のみをキャンセルすることができます。EQ はローシェルフ、ミッドベル、ハイシェルフの3バンドです。バンドの選択は **Band** パラメーターをクリックして下図のようなメニューを開き、そこから選択できます：



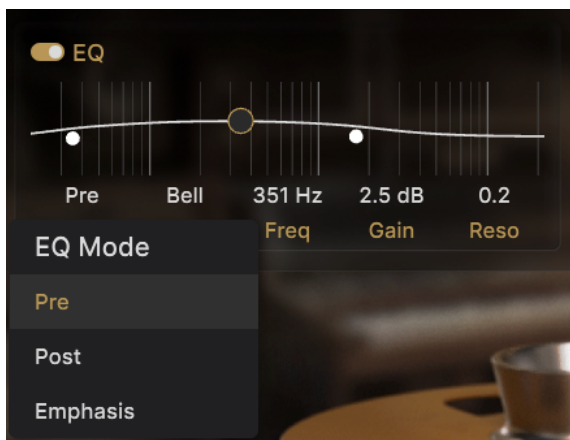
また、ビジュアルライザーに表示されている3つのドットのいずれかをクリックすることでバンドを選択することもできます：



数値フィールドを上か下にドラッグするか、ドットをドラッグして移動させると、そのバンドの設定を調整できます：

- **Freq**：各バンドの周波数を設定します (横にドラッグ)。
- **Gain**：各バンドのブースト/カットを調整します (縦にドラッグ)。
- **Reso**：選択したバンドによって動作が次のように変わります：
 - ハイシェルフとローシェルフ：コーナー周波数に「盛り上がり」や「二一」を形成します。
 - ミッドベル：センター周波数付近のピークまたはノッチの幅 (バンド幅) を調整します。

4.1.1.1. EQ Mode

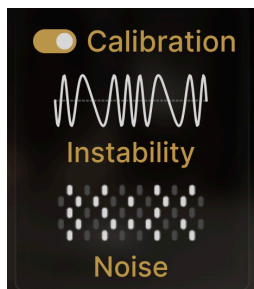


EQ セクションの左下にある **Mode** をクリックすると、シグナルチェーン内での EQ のポジションを選択できます：

- *Pre*：テープ処理の前端に EQ が配置されます。
- *Post*：Tape J-37 で加工された信号に EQ がかけられます。
- *Emphasis*：入力信号に EQ 処理をし、処理後の信号に EQ と逆の設定を適用します。

Emphasis は、EQ による音質の変化を打ち消します。では、なぜ EQ を入れるのかと言いますと、ブーストされた周波数帯域は、Drive と Color の設定でよりサチュレーションやディストーションの影響を受けやすくなり、カットされた周波数帯域はよりクリーンなサウンドになります。つまり、テープ処理による効果が強調されるのが、この *Emphasis* です。

4.2. Calibration



キャリブレーション・セクションでは、アナログ・テープレコーダー特有の「ビンテージ」サウンドにまつわる2つの挙動を設定します。

このセクションの左上にあるトグルスイッチをクリックすると、このセクションのオン/オフ（バイパス）を切り替えます。バイパスにしても、このセクションの設定が失われることはありません。

4.2.1. Instability



ゼロの状態

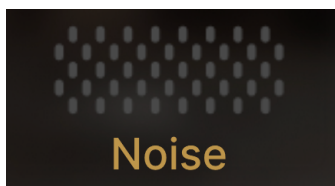


最大値の状態

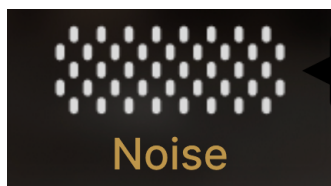
テープがモーターによって録音ヘッドや再生ヘッド上を走行すると、スピードやアラインメント（向き）が不規則になります。これは、ピッチやスピードのわずかな変化、テープ用語で云う「ワウ・フラッター」として聞こえます（一般に、ワウは1Hz以下のゆっくりとしたもので、フラッターは LFO 変調のように速いものを指します）。

Instability のグラフィック（波形部分）を上や下にドラッグすると、その深さを調整できます。[Stereo Offset \[p.27\]](#) がオンの場合、ここでの設定による変調効果がステレオで生じ、コーラスに若干似たようなサウンドになります。

4.2.2. Noise



ゼロの状態

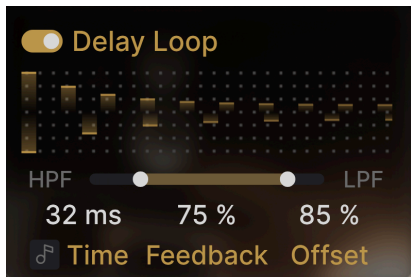


最大値の状態

テープの場合、多少のヒスノイズは避けられません。しかし Tape J-37 では、ノイズがまったくない状態にも、多い状態にも、その中間にもすることができます。DAW が停止していてもヒスノイズは聴こえますが、Tape J-37 の **Start** と **Stop** [p.12] ボタンを使用すると、入力信号とともにフェイドアウト、リスタートします。

Noise のグラフィックエリアを上や下にドラッグすると、ノイズの量が変化します。ノイズの量を増やしていくと、グラフィックのドットのグリッドが明るくなっていきます。Instability と同様、Stereo Offset がオンの場合はノイズもステレオで生じます。

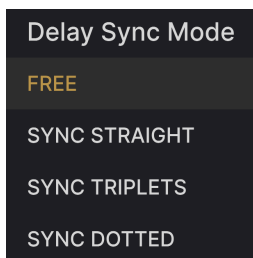
4.3. Delay



Tape J-37 には、フィードバック・パスの中にディレイステージがあり、テープ処理を通してフィードバックするディレイが搭載されています。これにより、微妙なフランジングから顕著なスラップバック効果まで、さまざまな効果を加えることができます。左上のトグルスイッチをクリックすると、ディレイのオン/オフ（バイパス）が切り替わります。バイパスにしても、ディレイの設定が失われることはありません。

4.3.1. ディレイタイムとテンポ同期

Time の数値フィールドを上や下にドラッグすると、ディレイタイムを調整できます。ディレイはテンポに対して動悸しないフリーランニング、または DAW のテンポに同期させることができます。音符アイコンをクリックすると同期メニューが開きます：



- **Free** : ディレイタイムはテンポに同期せず、ミリセカンド単位で表示され、10ms - 1,000ms (1秒) の範囲で調整できます。
- **Sync Straight** : 4分音符=8分音符2個というように、テンポに対してスウィング感のない「ストレート」なリズムで同期します。

- **Sync Triplets** : 4分音符1個分のスペースで8分音符3個を演奏するように、テンポに対して3連符のリズムで同期します。
- **Sync Dotted** : 4分音符 = 付点8分音符 + 16分音符というように、テンポに対して付点音符のリズムで同期します。

同期がオンの場合、ディレイタイムは拍の長さや小節数で表示され、*t* は3連符、*d* は付点音符を表します。

4.3.2. Feedback と Offset

Feedback と Offset の各数値フィールドを上や下にドラッグすると、それぞれの設定値が変化します。

- **Feedback** : ディレイがかかった信号がテープに再入力される量 (ディレイのリピート量) を調整します。
- **Offset** : 左右のステレオチャンネル間でディレイタイムの差を作ります。

i テープ処理された信号がディレイに入ると、フィードバックの設定によるゲイン調整後、テープエフェクトの入力にフィードバックされます。一般的なディレイとは異なり、このフィードバック・パスは独立したシグナルチェインではありませんので、ドライ/ウェットのミックスコントロールはありません。ディレイが繰り返すごとに、よりドライがかかったサウンドになります。

4.3.3. HPF と LPF



ディレイセクションにはハイパス (ローカット) とローパス (ハイカット) フィルターを調整する横スライダーがあります。Tape J-37 のディレイパスの構造上、ハイパスとローパスフィルターはフィードバックループ内に配置されています。つまり、フィードバックの設定に応じてディレイが繰り返すごとに、フィルターの効果がかかることとなります。そのため、ディレイが繰り返すごとにフィルターの効果が強くなっていきます。

4.3.4. ディレイのビジュアライザー



ディレイのビジュアライザーには、その設定が一目でわかるようにグラフィカルに表示されます。ディレイがテンポに同期している場合、横軸上に並んだ垂直方向のアンバー色の帯の数と同様に、ディレイリピートが実際に聴こえます。**Time** パラメーターを調整すると、グラフィックが変化します。

アンバー色の帯の高さは **Feedback** の設定に応じて変わり、それぞれの帯の上下端にあるバーは、ステレオチャンネル間の広がりを表します。

Offset の設定値を上げると、それぞれの帯から下半分 (右チャンネル) が上半分 (左チャンネル) から分離して、下図のように横軸に沿って移動します：



左右チャンネル間のオフセットを 50% に設定したときの表示

5. THE TOOLBARS



Tape J-37 の画面上端と下端にはプリセットの選択やユーティリティ設定などの重要な機能がいったツールバーがあり、上端のものをアッパーツールバー、下端のものをロワーツールバーと呼びます。

アッパーツールバーには次の機能が入っています：

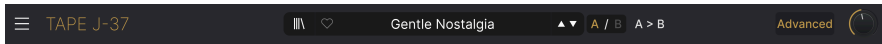
- [メインメニュー \[p.21\]](#)
- プリセット・ネームペーンと[プリセットブラウザ \[p.32\]](#)を開くボタン
- [A/B セットアップ \[p.25\]](#)を切り替えるスイッチとコピー機能
- [アドバンスパネル \[p.14\]](#)を開くボタン
- メインのアウトプット・ボリューム [\[p.25\]](#)ノブ

ロワーツールバーには次のような機能が入っています：

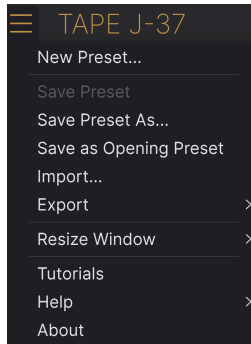
- [パラメーター名表示エリア \[p.26\]](#)
- オーディオ処理の[音質 \[p.26\]](#)を切り替えるドロップダウンメニュー
- 左右チャンネル間の微妙な違いを作る[ステレオオフセット \[p.27\]](#)のスイッチ
- テープマシンのリールアニメーション [\[p.27\]](#)のオン/オフスイッチ
- [バイパス \[p.27\]](#)ボタン
- [アンドゥ、リドゥ、エディット履歴 \[p.28\]](#)
- [CPU メーター \[p.29\]](#)と[パニック \[p.29\]](#)機能
- Tape J-37 の画面サイズの変更に便利な[リサイズハンドル \[p.29\]](#)

5.1. Upper Toolbar - アッパーツールバー

アッパーツールバーの機能を左から順にご紹介します。



5.1.1. Main Menu



アッパーツールバーの左側にある「ハンバーガー」アイコン (横3本線) をクリックするとメインメニューが開きます。このドロップダウンメニューには、プリセットの管理などに関する便利な機能が数多く入っています。

5.1.1.1. New Preset

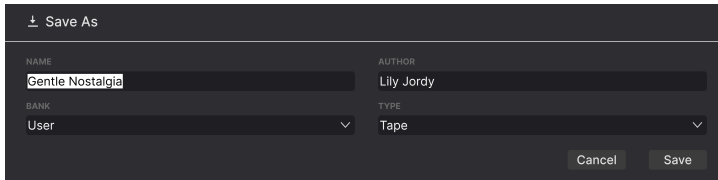
すべてのパラメーターの設定値がデフォルト値のプリセットを新規作成します。


5.1.1.2. Save Preset

選択したプリセットをエディットし、上書き保存するときに使用します。このコマンドはユーザープリセットにのみ使用でき、ファクトリープリセットを選択しているときは、このコマンドはグレーアウト表示になります。

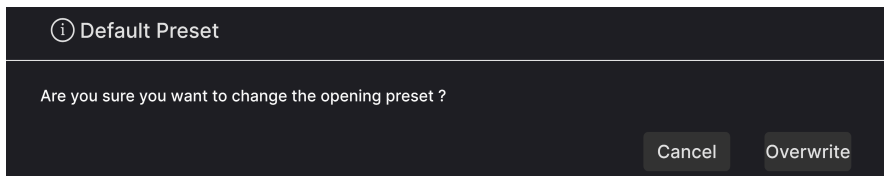
5.1.1.3. Save Preset As...

エディットしたプリセットに新しい名前をつけて保存します。このコマンドを選択すると、これから保存するプリセットの名前やその他の詳細情報を入力する、下図のような画面が開きます：



 Bank (保存先のバンク)、Author (プリセットの作者名)、Type (プリセットのタイプ) の各フィールドに入力しておく、[プリセットブラウザ \[p.32\]](#)で検索するときに便利です。

5.1.1.4. オープニングプリセットとして保存する



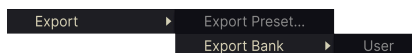
このオプションは、現在選択しているプリセット (ファクトリーまたはユーザー) を、DAW プロジェクト内で Tape J-37 をトラックに入れたときに最初に表示されるプリセット (オープニングプリセット) に指定するときに使用します。このプリセットにファクトリープリセットの1つを選択した場合、Tape J-37 を最初に開いたときにそのプリセットが表示されます。

5.1.1.5. Import...

このコマンドは、コンピュータに保存されているプリセット1個分または1バンク全体のファイルをインポート (読み込む) ときに使用します。このコマンドを選択すると、インポートするファイルを指定する画面が開きます。

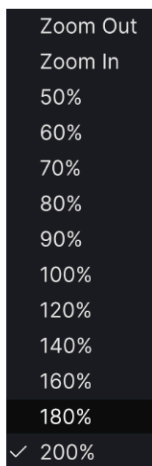
5.1.1.6. Export...

プリセットをコンピュータにファイルとしてエクスポート(書き出し)します。エクスポートは、プリセット1個分または1バンク全体のどちらかが選択できます。どちらの場合でも、このコマンドを選択するとファイルのエクスポート先を指定する OS レベルの画面が開きます。プリセット1個分でも1バンク分でも、エクスポートされたファイルには .J37X の拡張子がつきます。



- **Export Preset...** : プリセット1個分のファイルのエクスポートします。他の Tape J-37 ユーザーにファイルをシェアするときに便利です。書き出したファイルは **Import** メニューで読み込むことができます。
- **Export Bank** : 1バンク分のプリセットを1つのファイルとしてエクスポートします。バックアップや多くのプリセットを一度にシェアしたいときに便利です。書き出したファイルは **Import** メニューで読み込むことができます。

5.1.1.7. Resize Window - リサイズウィンドウ

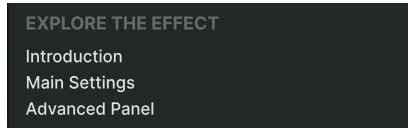


Tape J-37 の画面は 50% - 200% の範囲で画質が変わることなくリサイズできます。デフォルトサイズは 100% です。ラップトップなどスクリーンが小さめの場合は画面を縮小して Tape J-37 だけでスクリーンを占拠させないようにすることもできます。大型スクリーンやセカンドモニターでご使用の場合は、拡大表示の見やすい状態で操作できます。

画面サイズの変更は、キーボードショートカットでも行えます。Ctrl - (Windows) または CMD - (macOS) で画面サイズを1段階ずつ縮小し、Ctrl + (Windows) または CMS + (macOS) で画面サイズを1段階ずつ拡大します。

また、ロワーツールバーの右にある [リサイズハンドル \[p.29\]](#) をドラッグすることで、Tape J-37 の画面を好きなサイズに調整することができます。

5.1.1.8. Tutorials



Tape J-37 には各種機能をご紹介するインタラクティブなチュートリアルが内蔵されています。このオプションをクリックすると画面右側にチュートリアルの各タイトルが表示されます。タイトルを選択するとチュートリアルが始まり、関連するコントロール類がハイライト表示になり、各種機能をご紹介します。

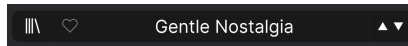
5.1.1.9. Help

Arturia ウェブサイト内のユーザーマニュアルや FAQ (よくある質問) へのリンクがあります。これらを使用するときは、インターネットに接続する必要があります。

5.1.1.10. About

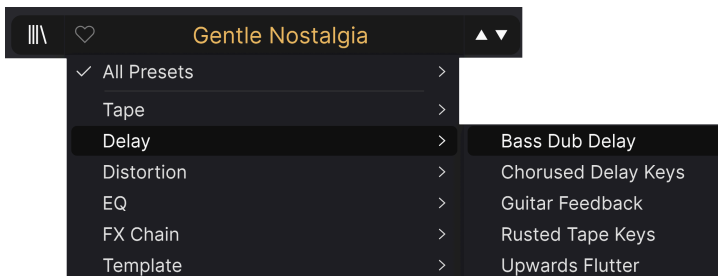
Tape J-37 のソフトウェアバージョンと開発者のクレジットが表示されます。ポップアップ以外のプラグイン画面の任意の位置をクリックすると、この画面が閉じます。

5.1.2. プリセットブラウザへのアクセスとネームペーン



プリセットネームペーン

「本棚の本」のようなボタン (≡) をクリックすると **プリセットブラウザ** [p.32] が開き、Tape J-37 のプリセットのブラウジングやサーチ、管理などを色々な方法で行えます。



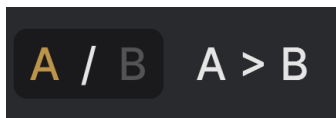
プリセット名の表示部分 (ネームペーン) をクリックするとドロップダウンメニューが開き、プリセットブラウザを使わずにプリセットを選択することができます。上図のようにタイプ別にプリセットを見てもできますし、タイプ等に関係なく全プリセットをリスト表示する *All Presets* から選択することもできます。

プリセットの管理につきましては、**プリセットブラウザ** [p.32] チャプターで詳しくご紹介します。そのチャプターでは、ハートアイコンをクリックすることでタグ付けできる *Favorites* (お気に入り) 機能もご紹介します。



Note: プリセット名にアスタリスク (*) が付いている場合、そのプリセットはエディット中であることを表示しています。

5.1.3. Dual settings and copy – A/B セッティングとコピー



セッティング A が選択され B へのコピーが可能な状態



セッティング B が選択され A へのコピーが可能な状態

各プリセットには実は2つのセッティングが入っています。A や B のボタンをクリックして、[メインパネル \[p.8\]](#)や[アドバンスパネル \[p.14\]](#)の各ノブ等のセッティングのセットを A と B の2種類で切り替えることができます。この2つのセットはプリセットレベルでセーブできますので、1つのプリセットで2つのセッティングを使うことができます。

セッティング A を選択しているときに **A > B** をクリックすると、A のセッティングを B にコピーします。セッティング B を選択している状態で **A < B** をクリックすると、B のセッティングが A にコピーされます。



！プリセットをエディットし、そのプリセットを保存せずに DAW プロジェクトを閉じると、エディットした内容は次にその DAW プロジェクトを開いたときに残っていますが、その内容はセッティング A として開きます。つまり、セッティング B をエディットし、プリセットを保存せずに DAW を終了すると、そのエディット内容はセッティング A に移動します。そして、その DAW プロジェクトを再び開いたときには、セッティング B はブランクになります。ですので、保存はこまめにしましょう！

5.1.4. Advanced Button



アッパーツールバーの右端付近には **Advanced ボタン** があります。これをクリックすると[アドバンス機能 \[p.14\]](#)のチャプターでご紹介しました機能のパネルが開きます。

5.1.5. Output Volume



アウトプット・ボリュームは、Tape J-37 で加工したオーディオ信号をトラックに送り込むレベルを調整する音量ノブです。DAW のミキサー画面を開いてトラックのレベル調整をする手間が省けて便利です。

5.2. Lower Toolbar - ロワーツールバー

Tape J-37 の画面下端にあるロワーツールバーは、機能面で左右に分かれているとみなすことができます。左側にはパラメーター情報エリアがあり、右側には便利なユーティリティ機能にアクセスできるボタンなどがいくつかあります。

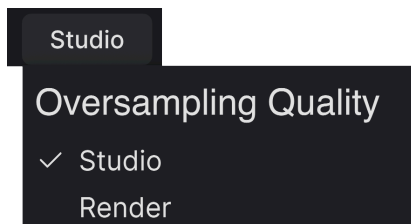
5.2.1. Parameter Descriptions - パラメーター情報エリア



Color のボタンにマウスオーバーし、そのパラメーターの情報を表示させた状態

ノブやボタン、アイコン、あるいはその他のコントロール類を操作したりマウスオーバーすると、そのパラメーターの情報がロワーツールバーの左側に表示されます。

5.2.2. Oversampling Quality



このメニューでオーバーサンプリングの品質を選択します

ロワーツールバーにあるこのボタンを使用して、音質と CPU 負荷のバランスを取ることができます。

- **Studio** : レコーディング時やミキシングなど、Tape J-37 とその他のプラグインやバーチャル・インストゥルメントやエフェクトで作業をするときに適しています。
- **Render** : 最終のミックスダウン時に最適です。

これはよし悪しの違いというよりも、ベターとベストの違いと言ったほうがより正確でしょう。Studio は作曲やミキシングには十分過ぎるほど高音質ですし、Render は最終ミックスに最適な音質です。

5.2.3. Stereo Offset



ハードウェアの Studer J37 をモデリングする際、左右のチャンネルに別々のトラックを使用しました。この2つのチャンネルの特性にはわずかな違いがあり、必要に応じてステレオの奥行き感を微妙に出すことができます。

- **On**：左チャンネルにはテープレコーダーのトラック1を使用し、右チャンネルにはトラック3を使用します。
- **Off**：左右チャンネルともテープレコーダーのトラック1を使用します。

Stereo Offset がオンの場合、[キャリブレーション \[p.16\]](#)にある Instability と Noise の各パラメーターもステレオで動作します。オフの場合は、この2つのパラメーターは左右チャンネルで完全に同一の特性になります。

5.2.4. Animation



Tape J-37 の使用時には、テープのリールとメカ部を動いている状態、または静止させた状態にすることができます。比較的古めのコンピュータを使用しているため、CPU 負荷を少しでも軽くしたいときや、リールなどのアニメーションに気が散ってしまうときには、アニメーション機能をオフにすることができます。

5.2.5. Bypass



バイパスボタン

Bypass ボタンで Tape J-37 の全体的な機能のオン/オフを切り替えます。DAW 側でプラグインのバイパス操作を必要とせず、プラグイン上でバイパス操作ができ、加工前と加工後の音の比較を簡単に行えます。

5.2.6. Undo, Redo, and History - アンドウ、リドウ、エディット履歴



左から：アンドウ、エディット履歴、リドウ

プラグインで音作りをしていると、ちょうどいいスポットを通り過ぎてしまい、その時の良い感じの音色に戻す方法が分からなくなってしまうことがよくあります。他の Arturia プラグインと同様、Tape J-37 にもアンドウとリドウ、エディット履歴がありますので、ある時点のエディット状態をいつでも安心して再現できます。

2つの矢印ボタンでエディットした順番に沿って前後に行き来できます。

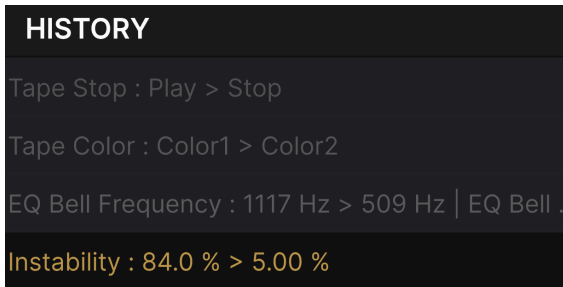
5.2.6.1. Undo - アンドウ

左向きの矢印ボタンをクリックすると直前のエディットに戻ります。繰り返しクリックするとそれ以前のエディットに1つずつ戻っていきます。

5.2.6.2. Redo - リドウ

右向きの矢印ボタンをクリックすると、直前のアンドウを取り消して再実行します。アンドウを複数回行ったときは、このボタンを繰り返しクリックしてそれ以前のアンドウを1つずつ再実行していきます。

5.2.6.3. History - エディット履歴



2つの矢印ボタンのセンターにある「ハンバーガー」ボタン（横3本線）をクリックするとエディット履歴が開きます（上図参照）。ここでは Tape J-37 で行った操作が1つずつすべて記録されています。リスト内のアイテムをクリックすると、そのエディットを再実行するだけでなく、最初にそのエディットを行った時点のプラグイン全体の状態に戻ります。



A、B セットアップのエディット履歴は別々に記録されます。

5.2.7. CPU Meter - CPU メーター

ロワーツールバーの右端には **CPU メーター** があり、Tape J-37 が消費している CPU パワーの量を表示します。ここでは Tape J-37 のみの CPU 消費量を表示しますので、DAW の CPU メーターの代わりにはなりません。

5.2.7.1. Panic - パニック

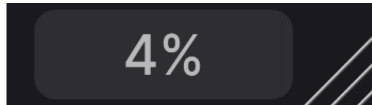


CPU メーターにマウスオーバーすると **PANIC** 機能にアクセスできます

CPU メーターにマウスオーバーすると、PANIC という表示が出ます。これをクリックすると、オールサウンドオフコマンドを送信し、Tape J-37 の音を強制的に停止させます。これは瞬間的なコマンドですので、DAW が再生中のときは音は再開します。

深刻なオーディオの暴走、例えばディレイがフィードバックループでおかしくなってしまった場合などのときには、DAW の再生を停止して問題を起こしているプラグインをオフにしてください。

5.2.8. Resize handle - リサイズハンドル



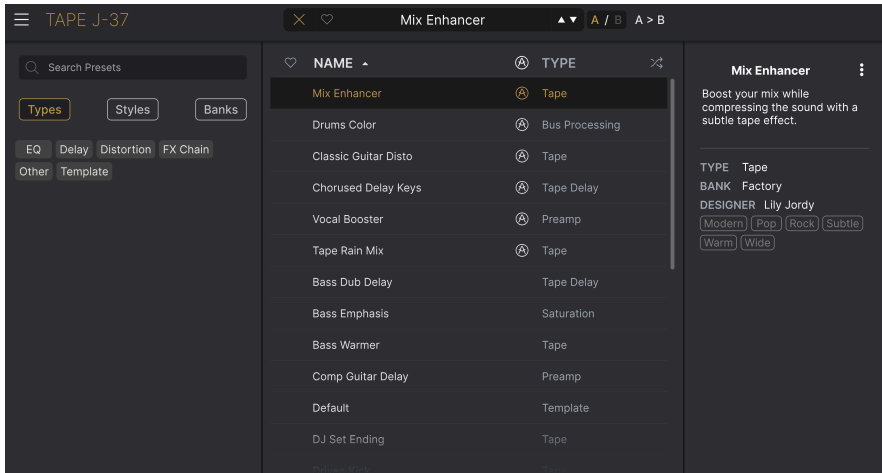
CPU メーターの右側にある斜線部分をドラッグすると、Tape J-37 の画面サイズを変更できます。ドラッグしてマウスボタンを放すと、[リサイズウィンドウ](#) [p.23]で設定できる縮尺に最も近いサイズに拡大/縮小します。

5.2.8.1. Max View ボタン



リサイズハンドルのところに、2つの斜め矢印が入ったボタンが表示されることがあります。何らかの理由で Tape J-37 の全体が表示されていないときに、このボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、パネル全体が表示されるようになります。

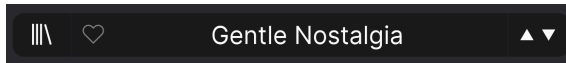
6. SELECTING PRESETS



Tape J-37 では、プリセットのブラウズやサーチ、選択をプラグイン内のブラウザ風のインターフェイスで行えます。オリジナルのプリセットをユーザーバンクにセーブすることもできます。もちろん、DAW プロジェクトをセーブした時にその時に選択していたプリセットを含む本プラグインの各種セッティングも自動的にセーブされますので、いつでも中断したところから作業を再開できます。

まずは、アッパーツールバーにあるプリセット関連の機能から詳しくご紹介します。

6.1. Preset Name Pane – プリセットネームペーン



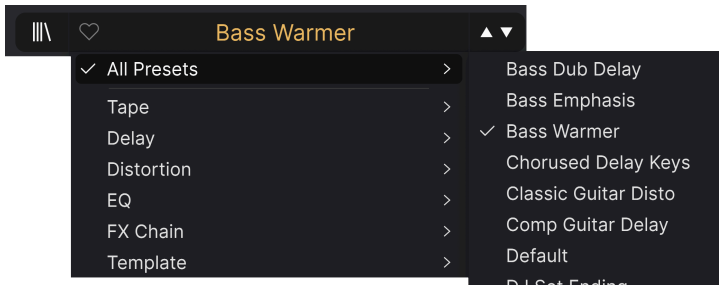
メインパネルやプリセットブラウザでは、画面トップの中央にネームペーンが常に表示されます。ここには、そのときに選択しているプリセット名が表示されますが、プリセットのブラウジングやロードもここから行えます。また、輪郭ではなく塗りつぶされたハートマークが表示されているときは、そのプリセットがフェイバリットに登録されていることを示します。

6.1.1. 上下の三角矢印

プリセット名の右には上下の三角矢印 (▲/▼) があり、これをクリックするとプリセットを1つずつ順番に切り替えることができます。ここで選択できるプリセットはサーチ結果で制限され、サーチにヒットしたプリセットを順番に1つずつ切り替えます。そのため、全プリセットをこの三角矢印で順番に見ていきたいときは、サーチ条件をすべて消去しておく必要があります。

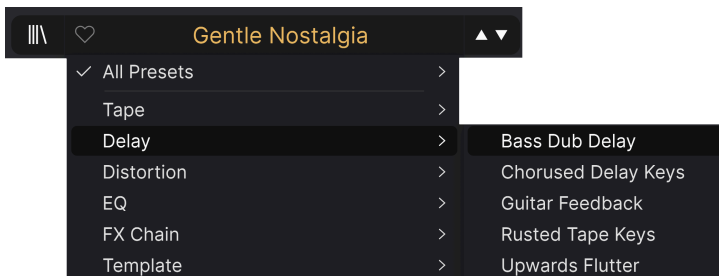
6.1.2. Quick Browser - クイックブラウザ

前のチャプターでも触れましたが、アッパーツールバー中央のプリセット名をクリックすると、プリセットのクイックブラウザが開きます。このメニューの最初のアイテムは All Presets で、そのサブメニューには文字通りそのバンク内のすべてのプリセットが表示されます：



All Presets を開いた状態

All Presets 以下の各アイテムはプリセットのタイプ [p.33] です。各タイプにもサブメニューがあり、そのタイプに属しているすべてのプリセットが表示されます：



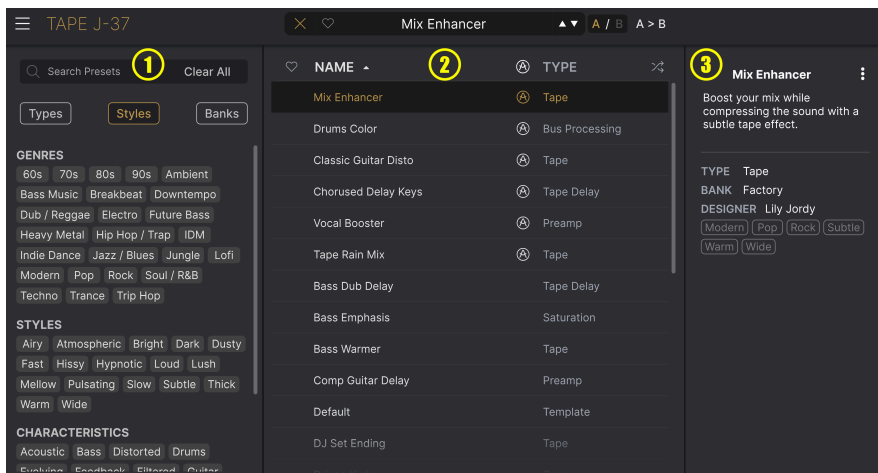
ドロップダウンメニューから Delay を選択し、そのタイプに属しているプリセットのリストを開いている状態

上下の三角矢印とは異なり、"All Presets" のサブメニューは検索条件を参照せず、単に全プリセットを表示します。また、All Presets 以下のタイプからは、そのタイプに属しているプリセットがサブメニューに表示されます。

6.2. The Preset Browser – プリセットブラウザ

アッパーツールバーにある "本棚の本" アイコン (|||) をクリックするとプリセットブラウザが開きます。プリセットブラウザを開くと、"本棚の本" アイコンが大きなXに変わり、これをクリックするとプリセットブラウザが閉じます。

プリセットブラウザには以下の3つのエリアがあります：

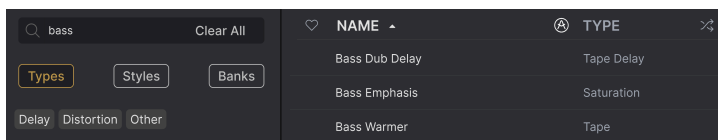


#	エリア	内容
1.	Search [p.32]	入力したテキストや、Type、Style、Bankの各フィルターでプリセットをサーチします。
2.	Results Pane [p.35]	サーチした結果が表示されます。サーチしていないときは全プリセットが表示されます。
3.	Preset Info [p.37]	プリセットの詳細情報が表示されます。ユーザーバンクのプリセットは詳細情報の内容を編集できます。

6.3. Searching Presets – プリセットのサーチ

画面左上のサーチフィールドをクリックすると、検索ワードを入力できます。プリセットブラウザは、次の2つの方法でプリセットをサーチします。1つ目は、サーチフィールドに入力した文字列と一致するプリセット名をサーチします。2つ目は、検索ワードが [Type](#) や [Style \[p.33\]](#) のタグ名に近い場合、そのタグを含んだプリセットもサーチします。

サーチ結果はリザルトペーンに表示されます。**Clear All** をクリックすると検索ワードが消去されます。

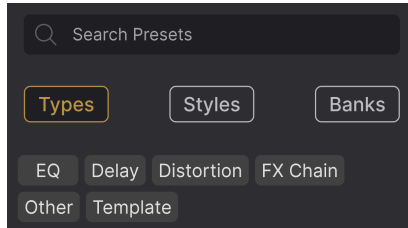


サーチフィールドにテキスト ("bass") を入力してプリセットをフィルタリング


6.3.1. Using Tags as a Filter – タグによるフィルタリング

タグを使用することで検索対象を絞り込む（時には広がってしまうこともあります）ことができます。タグに2タイプがあり、1つは **Types**、もう1つは **Styles** です。2つのタイプのどちらかだけを使用することも、両方を併用することもできます。


6.3.1.1. タイプとサブタイプ



Tape J-37 のタイプは、Tape、Delay、Distortion、EQ、Effects Chainなど、用途に対応するタグです。検索バーに何も入力していない状態で **Types** のドロップダウンメニューをクリックすると、タイプのリストが表示されます。タイプには、音楽的またはオーディオ的な目的をより具体的に分類するサブタイプが含まれていることがあります。

 [プリセットを保存 \[p.22\]](#)する際に、コンテキストメニューのタイプを使用して、タイプとサブタイプを指定することができます。そのプリセットは、そのタイプを選択して検索をすると表示されます。クイックドロップダウンメニュー [\[p.31\]](#)に表示されるプリセットのカテゴリーはサブタイプに対応しています。同様に、サブタイプはリザルトページ [\[p.35\]](#)の Type コラムに表示されるタグのタイプです。

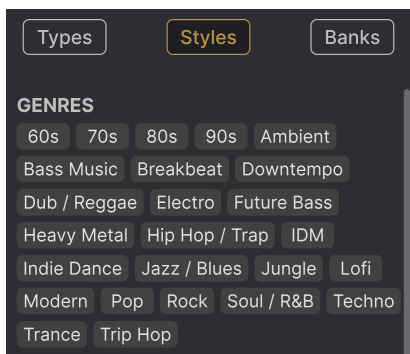
Name と Type の各コラムの表示順は、それぞれのタイトルの右側にある矢印ボタンをクリックすることで反転させることができます。

 [プリセットのセーブ \[p.22\]](#)時にタイプを設定することができます。そのプリセットは、セーブ時と同じタイプを選択すると検索結果に表示されます。

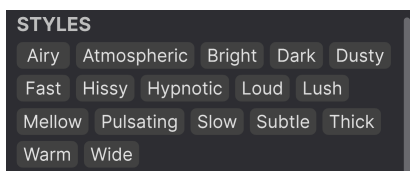
6.3.1.2. Styles

スタイルというのは、つまり...スタイルです。**Styles** ボタンをクリックするとアクセスでき、このエリアには3つの詳細カテゴリがあります：

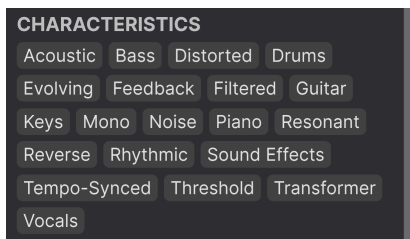
- **Genres** : Ambient、Bass Music、Industrial などの音楽ジャンルです：



- **Styles** : Bizarre、Metallic、Slammed など、一般的な雰囲気を表します：



- **Characteristics** : Filtered、Resonant、Mechanical、Noise など、より詳細なプリセットの特徴です：



タグのいずれかを選択すると、そのタグを含んでいるプリセットのみが表示されます。また、タグを選択すると、通常はその他のタグがいくつかグレイアウト表示になります。これは該当しないものを対象外にすることでブラウザがサーチを絞り込んでいるためです。

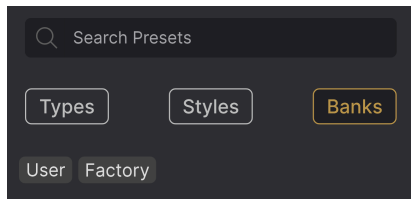


タグをより多く選択すると、その分だけサーチ結果が広がります。

タグの選択を解除すると、サーチを最初からやり直すことなくサーチ対象を広げることができます。また、上部に表示されたタグ名の右にある X をクリックすることでそのタグを外すこともできます。

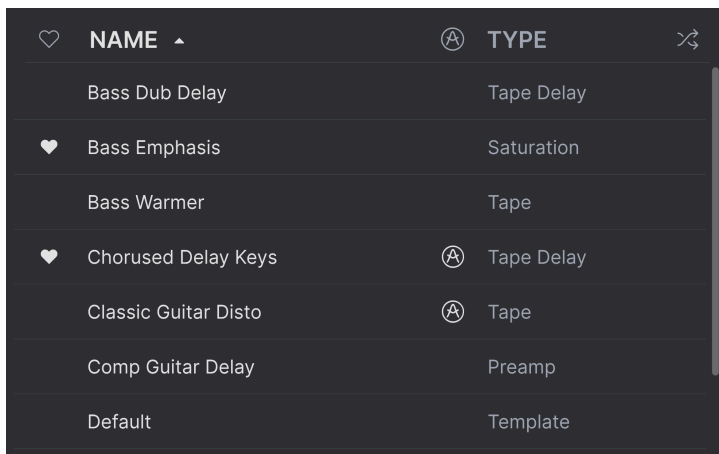
プリセットのサーチは、検索ワードによるサーチ、Types と Styles によるサーチ、そしてその両方を使うことができ、その場合はさらに絞り込んだサーチが行なえます。サーチバーにある **Clear All** をクリックすると Types や Styles のタグと検索ワードをすべて消去します。

6.3.2. Banks



Types と Styles の隣りにあるドロップダウンは Banks で、(上記のすべての方法を使った) サーチ対象をファクトリーかユーザーバンクのどちらかに限定することができます。Tape J-37 を使い始めた時点では、ファクトリーバンクのみが表示されますが、ユーザープリセットを保存した時点でユーザーバンクも表示されるようになります。同様に、バンクを作成するとそのバンクも表示されるようになります。

6.4. The Results Pane – リザルトペーン

A screenshot of the results pane showing a list of presets. The list has two columns: NAME and TYPE. The NAME column has a heart icon and a dropdown arrow. The TYPE column has a star icon and a refresh icon. The list items are: Bass Dub Delay (Tape Delay), Bass Emphasis (Saturation), Bass Warmer (Tape), Chorused Delay Keys (Tape Delay), Classic Guitar Disto (Tape), Comp Guitar Delay (Preamp), and Default (Template).

NAME	TYPE
Bass Dub Delay	Tape Delay
Bass Emphasis	Saturation
Bass Warmer	Tape
Chorused Delay Keys	Tape Delay
Classic Guitar Disto	Tape
Comp Guitar Delay	Preamp
Default	Template

プリセットブラウザの画面中央部にはサーチ結果が表示されます。サーチをまったくしていない状態ではバンク内の全プリセットが表示されます。プリセット名をクリックするとそれがロードされます。

6.4.1. プリセットの並べ替え

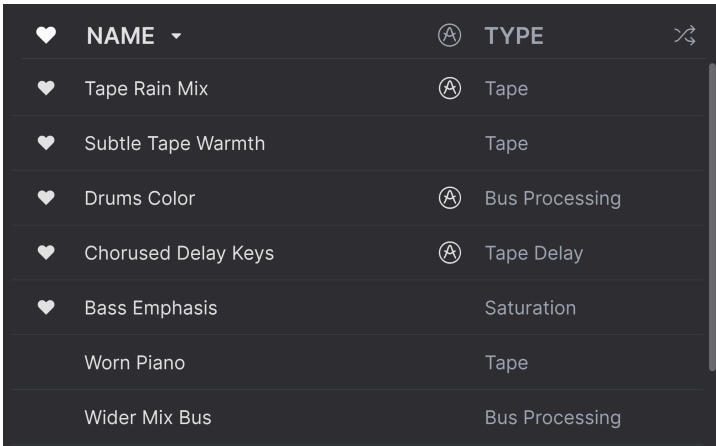
表示されているプリセットのリストの最初のコラムにある **NAME** ヘッダをクリックすると、プリセットのリストが ABC 順またはその逆順にソートします。

2つ目のコラムの **TYPE** ヘッダをクリックすると同じことがタイプで起こります。

6.4.2. プリセットに "いいね" をつける

プリセット名の左にあるハートマークをクリックすることでプリセットをマーキングすることができます (このアイコンはメインの [プリセットネームバー](#) [p.30] にも表示されます)。

ハートマークをクリックしたプリセットは、下図のように検索結果リストのトップに表示されます：



クリックされた ("いいね" がついた) ハートマークは中が塗りつぶされます。輪郭線だけのハートマークは (まだ) クリックされていないプリセットです。クリックされたハートを再びクリックすると "いいね" が解除されてリストのトップからは消えて元の位置に戻ります。

6.4.3. シャッフルボタン



このボタンをクリックするとプリセットリストをランダムに並べ替えます。リスト全体を1つずつ見ていくよりも、探していたプリセットが見つかりやすくなることもあります。

6.4.4. おすすめファクトリープリセット

Arturia ロゴが付いているプリセットは、Tape J-37 の各種機能を雄弁に物語っているプリセット、つまりおすすめファクトリープリセットです。

NAME	TYPE
Mix Enhancer	Tape
Drums Color	Bus Processing
Classic Guitar Disto	Tape
Chorused Delay Keys	Tape Delay
Vocal Booster	Preamp
Tape Rain Mix	Tape
Bass Dub Delay	Tape Delay

リザルトページのトップにある Arturia アイコンをクリックすると、リストのトップにおすすめプリセットがすべて表示されます。

6.5. Preset Info Section – プリセット情報

プリセットブラウザの右側には各プリセットの情報が表示されます。

Gentle Nostalgia

Wrap your instrumental tracks or vocals with this nostalgia-inducing tone, complete with mid-high range feedback to add wings to your sound.

TYPE Tape

BANK Factory

DESIGNER Lily Jordy

90s Feedback

Hip Hop / Trap Lofi Lush


Mellow Soul / R&B Trip Hop

Warm

Save As コマンドでセーブしたプリセット、つまりユーザーバンクのプリセットには、プリセットの各種情報を入力したり編集することができ、リアルタイムにアップデートされます。情報には、プリセットの作者、Type、すべての Style タグのほか、表示エリアの下部にはメモを入力できるエリアもあります。

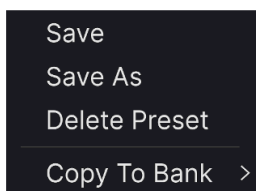
プリセット情報を編集するには、テキストフィールドの情報はそこに入力します。Bank や Type はプルダウンメニューで変更できます。また、下図のように、階層メニューをたどってタイプを追加選択したり、タイプやサブタイプを新規に作成することもできます。

Delay	>	Creative Delay
Distortion	>	Looper
Dynamics	>	Modulated Delay
EQ	>	Multi-tap Delay
Experimental	>	Slap Delay
FX Chain	>	Tape Delay
Filter	>	Analog Delay
Modulation	>	Digital Delay
Other	>	Doubler
Pitch	>	M/S Delay
Reverb	>	Ping-Pong Delay
Rhythmic	>	+ New
Stereo	>	
Template	>	
Texture	>	

 Types と Styles を変更すると、それがサーチ結果にも反映されます。例えば、あるプリセットの "Subtle" の Style タグを外すと、次にそのタグでサーチをしてもそのプリセットは表示されません。

6.5.1. クイックメニュー

ドットが縦に3つ並んだアイコンをクリックすると、Save、Save As、Delete Preset のクイックメニューが開きます：



ファクトリーバンクのプリセットでは、**Save As** のみが使用できます。

Copy To Bank は、次の2つの動作を同時に行います。1) 現在選択しているプリセットのコピーを作成し、2) ドロップダウンメニューで選択したユーザーバンクに保存します。Tape J-37 や他の Arturia FX Collection のプラグインで作成し、名前をつけたユーザーバンクは、このメニューに表示されます。

6.5.2. スタイルの編集

オリジナルの Style タグを作成して、サーチ基準をもっと自分に合ったものにもすることもできます。プリセット情報ページにある + アイコンをクリックするとスタイル編集ページが開き、そこで新しいタグを必要だけ作ることができます (この操作はユーザーバンクでのみ行えます) :

6.5.3. 複数のプリセットの情報を編集する

複数のプリセットの Types、Styles、作者名、メモを同時に編集することも簡単に行えます。

同時に編集したいプリセットをリザルトペーンのリストで CMD (macOS) または Ctrl (Windows) キーを押しながらクリックして選択します。次に、Types や Styles を変更したり、コメント欄にメモを入力するなどして、セーブして完了です。



プリセット情報の編集は、ユーザープリセットでのみ行えます。ファクトリープリセットでは、*Copy To Bank*のみが使用できます。

7. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンス料（お客様が支払ったアートリア製品代金の一部）により、アートリア社はライセンスサーとしてお客様（被ライセンス）にソフトウェアのコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社（以下アートリア）に帰属します。アートリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEM ソフトウェアの使用はレジストレーション完了後のみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリアへの書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本ソフトウェアをネットワーク上で使用することは、同時期に複数のプログラムが使用される可能性がある場合、違法となります。お客様は、本ソフトウェアのバックアップコピーを作成する権利がありますが、保存目的以外に使用することはできません。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリアは、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリアは、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとして OEM ソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリアは、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど）に同意するよう求められます。アートリアは、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になっています。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。お客様は、ソフトウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんすることはできません。

6. 権利の譲渡と著作権 お客様は、本ソフトウェアを使用するすべての権利を他の人に譲渡することができます。以下の条件を満たすことを条件とします。(a) お客様は、他の人に以下を譲渡します。(i) 本契約および(ii) 本ソフトウェアとともに提供され、同梱され、またはプリインストールされたソフトウェアまたはハードウェア、本ソフトウェアに関するアップデートまたはアップグレードの権利を付与したすべてのコピー、アップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを含む。(b) お客様が本ソフトウェアのアップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを保持していないこと。(c) 受領者が本契約の条件に同意していること。(c) 受領者が、本契約の条件およびお客様が有効なソフトウェアライセンスを取得した際のその他の規定を受け入れること。

本契約の条件に同意しなかったことによる製品の返却(製品のアクティベーションなど)は、権利譲渡後にはできません。権利を譲渡した場合、製品の返却はできません。また、ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとしします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとしします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのサポートの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとしします。

8. 限定保証 アートリアは通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリアは、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリアが提供する補償はアートリアの選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリアにソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとしします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間が30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリアまたは販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行なったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリアは、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害(業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む)について、アートリアが当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。